

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01183

研究課題名（和文）ブータン国教ドゥク派仏教の研究

研究課題名（英文）A Study on the Drukpa Kagyu School

研究代表者

熊谷 誠慈（Kumagai, Seiji）

京都大学・人と社会の未来研究院・教授

研究者番号：80614114

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,100,000円

研究成果の概要（和文）：本課題では、特に研究の薄いブータン国教宗派「ドゥク派」の開祖ツァンパギャレー（1161-1211）および初期ドゥク派の解明を進めた。その成果については、計2冊の英語書籍を出版し、オックスフォード宗教百科事典に項目記事が載録された。また、GNH（国民総幸福）政策と仏教に関する発表や出版を実施する等、学术界や一般社会におけるブータン及びブータン仏教の理解に大きく貢献できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年の世界的なブータンブームにより、ブータンへの社会的関心は高まりつつあるが、同国は20世紀半ばまで長らく鎖国政策下にあり、同国に関する学術研究は大幅に遅れている。同国の正確な理解のためには、仏教や、隣接するチベットに関する広汎な知識が必要だが、同国に関して、チベット学を背景とした仏教学的研究は、極めて少ない。本課題では、特に研究の薄いブータン国教宗派「ドゥク派」の開祖ツァンパギャレー（1161-1211）および初期ドゥク派の解明を進め、計2冊の英語書籍を出版し、オックスフォード宗教百科事典から記事を出版する等、学术界や一般社会におけるブータン及びブータン仏教の理解に大きく貢献できた。

研究成果の概要（英文）：In this project, we have made significant contributions to the understanding of Bhutan and Bhutanese Buddhism in academia and society in general by elucidating Tsangpa Gyaree (1161-1211), the founder of the Drukpa Kagyu school, the Bhutanese state Buddhist school, that has not been studied much academically. We conducted research especially on the early Drukpa Kagyu school, publishing two books in English and an article in the Oxford Encyclopedia of Religions. We also gave presentations and published articles on GNH and Buddhism. The project has made a significant contribution to the understanding of Bhutan and Bhutanese Buddhism in academia and society.

研究分野：仏教学

キーワード：ドゥク派 ツァンパギャレー ブータン仏教

1. 研究開始当初の背景

ブータン王国は20世紀半ばまで長らく鎖国政策下にあり、研究資料はもとより入国すら困難であったため、同国の社会文化に関する学術研究は大幅に遅れている。他方、近年の世界的なブータンブームにより、同国への社会的関心は高まりつつある。

仏教国であるブータンを正しく理解するためには、仏教への深い造詣や、隣接するチベットに関する広汎な知識が必要だが、ブータンに関して、チベット学を背景とした仏教的研究は、現時点では極めて少ない。

ブータンの国教は「ドゥク派」と呼ばれる仏教宗派である。ドゥク派はツァンパギャレー(1161-1211)を開祖とし、当初はチベット仏教カギユ派内の一支派に過ぎなかったが、17世紀にガワン・ナムゲル(1594-1651)がブータンの国教に定めた。ドゥク派に関する文献は長らく入手困難であったため、ブータン国内であっても研究の蓄積に乏しく、開祖ツァンパギャレーの人物像すら殆ど伝えられていない。Michael Aris (Bhutan, 1979) や今枝由郎(『ブータン中世史』, 2003)などが中期のドゥク派については整理しているものの、初期ドゥク派の歴史や思想に関する学術研究は皆無であった。ブータンを本質的に理解するためには、開祖ツァンパギャレーや初期ドゥク派の思想を理解しなければならない。

また、なお、同国が主導するGNH(国民総幸福度)政策に対しては、我が国においても関心が高まっており、自治体の施策として導入する事例もある。しかし、これを一過性のブームに終わらせないためにも、GNHの基底にあるドゥク派仏教思想の精緻な解明が必須である。

2. 研究の目的

以上の背景から、本研究課題では、ブータン仏教を源流から理解すべく、開祖ツァンパギャレー(1161-1211)を中心としたドゥク派の歴史と思想の文献学的解明を行うことを主目的とした。具体的には、ドゥク派の誕生の経緯、思想的特徴とは何なのか、現代のブータン社会にドゥク派は如何なる影響を与えているのか、といった問いに解を出すことを目的とした。加えて、ドゥク派が現代のブータン社会に与えている影響についてGNH政策を中心に検証することを副次的な目的とした。

3. 研究の方法

本研究課題では、文献学的手法に基づき古文書の解析によるドゥク派の歴史・思想の解明、さらに、開発学的手法に基づき現代のブータン社会における仏教思想の定着と政策への展開を進めるという方法を採用した。

ドゥク派を起源とするブータン仏教の歴史と思想形成の解明

本課題では、まず同派の開祖ツァンパギャレーの伝記を紹介した代表者の過去の研究を土台とし、ツァンパギャレーの歴史研究を推進した。まず、代表者が入手した作者の異なる7種類のツァンパギャレーの伝記を比較検討することで、彼の人物像を多角的に分析した。その成果は、『オックスフォード宗教百科事典』等を通じて出版した。また、ドゥク派の分派の歴史について整理し、出版した(The Founder and Disciples of the Drukpa Kagyü school: Re-examination of the Three Sub-schools of Drukpa Kagyü, 2024)。

代表者は、雇用したチベット人の博士研究員と共同で、伝記ごとに存在する複数の写本の比較作業を行い、ツァンパギャレー伝の批判的校訂テキスト（Critical Edition）および日本語訳・英訳を作成した。そのうち、最古の3つの伝記の校訂本（Seiji Kumagai, Thupten Gawa Matsushita, and Akinori Yasuda: The Three Oldest Biographies of Tsangpa Gyare, the Founder of the Drukpa Kagyü School, Thimphu: Centre for Bhutan & GNH Studies, 2022）を出版した。

現代のブータン社会における仏教思想の定着と政策への展開

ブータンはGNHという斬新な開発政策により世界的な注目を集めている。実際、国連では2012年に「世界幸福デー(3月20日)」が採択され、我が国でも全国100以上の自治体が「幸せリーグ(住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合)」を組織するなど、同国のGNH政策は日本の地方行政にも確実に浸透している。代表者は既に、GNH政策に窺われるドゥク派仏教思想に関して、仏教学的見地にもとづく個人研究の結果を公表していたが、本課題では、複数のGNH研究者との密接な共同の下、同政策をより包括的な視点から検討し、ブータンの社会・地域におけるGNHの役割を吟味し、それを踏まえて現実社会に対するドゥク派の影響を分析した。その成果は、共著(『現代社会の仏教』(シリーズ実践仏教5), 京都: 臨川書店, 2020年)として出版した。

歴史面に関しては、研究分担者で、GNHの歴史について情報交換を行ってきた開発学者の真崎克彦氏(甲南大学教授)が、ブータンの11度の「5か年計画」(1968~2018年の約5年毎)に焦点を当て、特にインドとの関係性に着目してGNHの特異性の解明を進めた。

4. 研究成果

○1年次

1年次の2020年度には、新型コロナウイルス蔓延のために、ブータンでのフィールド調査を実施することができず、また、海外研究者を招聘しての対面型でのシンポジウム企画については延期をすることになった。

他方、文献調査を進めることに専念し、研究代表者の熊谷と分担者の安田が中心となり、ドゥク派開祖ツァンパギャレーの伝記や著作の批判的校訂テキストおよび現代語訳の作成を進めた。加えて、テキスト検索のためのプログラミング・アルゴリズムの開発を進めた。また、GNHに関して、研究分担者の真崎は、国際開発学会の研究部会や、日本ブータン学会にて、ブータン山村における協同組合支援や、GNH批判の学術的検討などについて発表を行った。加えて、研究代表者の熊谷が「ブータンにおける実践仏教：ブータンの仏教と国民総幸福(GNH)政策」(船山徹編『現代社会の仏教』(シリーズ実践仏教5), 京都: 臨川書店, 2020年5月, pp. 91-163)と題して、ブータン仏教とGNHとの関係性について大枠を整理した。

○2年次

2年次の2021年度も、新型コロナウイルス蔓延のせいで、ブータンでのフィールド調査を実施することができず、また、海外研究者を招聘しての対面型でのシンポジウム企画については延期をすることになった。

他方、文献調査を進めることに専念し、研究代表者の熊谷と分担者の安田が中心となり、ドゥク派開祖ツァンパギャレーの伝記や著作の批判的校訂テキストおよび現代語訳の作成を進めた。加えて、テキスト検索のためのプログラミング・アルゴリズムの開発を進めた。

また、GNH に関して、研究分担者の真崎は、ブータン山村における協同組合支援や、GNH 批判の学術的検討などについて複数の学術論文を出版した。加えて、研究代表者の熊谷がオックスフォード宗教百科事典から、項目記事“Early History of the Drukpa Kagyu School”を出版し、ドゥク派初期の歴史の大枠を整理した。

○3年次

3年次の2022年度には、新型コロナウイルスによる渡航規制が少しずつ解除され、国際学会での発表等を行った。2022年7月には、チェコのチャールズ大学(*プラハ・カレル大学)で開催された第16回国際チベット学会にて、ブータン・ヒマラヤ地域を対象とした学術部会を主催し、世界のブータン学者・ヒマラヤ学者たちと、学際的な議論・分析を行った。

また、文献調査を進めることに専念し、研究代表者の熊谷と分担者の安田が中心となり、ドゥク派開祖ツァンパギャレーの伝記や著作の批判的校訂テキストおよび現代語訳の作成を進め、校訂テキストを書籍(Seiji Kumagai, Thupten Gawa Matsushita, and Akinori Yasuda: *The Three Oldest Biographies of Tsangpa Gyare, the Founder of the Drukpa Kagyü School*, Thimphu: Centre for Bhutan & GNH Studies, 2022)として出版した。加えて、ブータンへの社会実装を想定したテキスト検索・出力のためのチャットボット・プログラミング・アルゴリズムの改良を進めた。

また、GNH に関して、研究分担者の真崎は、ブータン山村における協同組合支援や、ブータンと日本の経済コミュニティの比較等について複数の報告を開催した。

○4年次

最終年度の2023年度には、熊谷が中心となり、ドゥク派開祖ツァンパギャレー(1161-1211)の伝記ならびに著作集のクリティカルエディションならびに試訳を作成した。伝記については、申請者が入手した作者の異なる7種類のツァンパギャレーの伝記を比較検討することで、彼の人物像を多角的に分析した。7種類の伝記のうちツァンパギャレーの直弟子作成の3種類については、昨年度にエディションを出版した。

2023年度には、直弟子以降に作成された3種類の伝記のクリティカルエディションと試訳を完成させ、現在、出版に向けて、王立ブータン研究所と協議中である。

また、ブータン、シッキム、アルナチャルプラデーシュ地域に焦点を当てた学際的な英語書籍(Seiji Kumagai, Miguel Alvarez Ortega, Françoise Pommaret, Anna Balikci Denjonpa: *Traditional Neighbours, Different Modernities: Bhutan, Sikkim and the Mon Region*, Kyoto/Melborne: Kyoto University Press/Trans Pacific Press, 2024.)を出版した。ドゥク派の歴史に関する概論的論稿を出版した。

小西はブータンを訪問し、仏教以前の情報を収集し、仏教との比較を行う材料を得た。真崎は、GNHを参考に、持続可能な開発について再検討を行い、ポスト資本主義時代における価値創造に関する考察を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Seiji Kumagai | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 The Founder and Disciples of the Drukpa Kagyu school: Re-examination of the Three Sub-schools of Drukpa Kagyu | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 Traditional Neighbours, Different Modernities: Bhutan, Sikkim and the Mon Region | 6. 最初と最後の頁 71-97 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Katsuhiko Masaki | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 A doctor who turned the Afghan desert green: Rectifying international aid through “pure experience | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Journal of South Asian Research | 6. 最初と最後の頁 63-82 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|------------------------|
| 1. 著者名 Katsuhiko Masaki | 4. 巻 34-1 |
| 2. 論文標題 Exploring the ‘partial connections’ between growth and degrowth debates: Bhutan’s policy of Gross National Happiness | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Interdisciplinary Economics | 6. 最初と最後の頁 86 - 103 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Katsuhiko Masaki | 4. 巻 8-2 |
| 2. 論文標題 Thoughts on the Bhutanese local governance system | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 The Druk Journal | 6. 最初と最後の頁 114-119 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Seii Kumagai | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Early History of the Drukpa Kagyu School | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Oxford Encyclopedia of Religion | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/acrefore/9780199340378.013.664 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|------------------|
| 1. 著者名 Katsuhiko Masaki | 4. 巻 2021 |
| 2. 論文標題 Do pluriversal arguments lead to a 'world of many worlds'? Beyond the confines of (anti-)modern certainties. | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 GDI Working Paper | 6. 最初と最後の頁 56 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Katsuhiko Masaki | 4. 巻 42 |
| 2. 論文標題 Community economies in support of people's livelihoods: A case of a dairy cooperative of a mountain village in Bhutan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Asia-Pacific Studies | 6. 最初と最後の頁 161-178 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Katsuhiko Masaki | 4. 巻 16-2 |
| 2. 論文標題 Exploring the origins of Bhutan's Gross National Happiness | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Journal of South Asian Development | 6. 最初と最後の頁 273-292 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/09731741211039049 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Katsuhiko Masaki | 4. 巻 45 |
| 2. 論文標題 A critical analysis of degrowth debates through the lens of Gross National Happiness (GNH): Refraining from the conventional view of plurality | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Bhutan Studies | 6. 最初と最後の頁 36 - 69 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 8件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 Katsuhiko Masaki |
| 2. 発表標題 Reorienting the Sustainable Development Goals: Lessons from Bhutan's Gross National Happiness |
| 3. 学会等名 11th International Conference on Sustainable Development (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 真崎克彦 |
| 2. 発表標題 地域主義の意義と可能性 ポスト資本主義時代における価値創造 |
| 3. 学会等名 第24回 国際開発学会 春季大会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Seiji Kumagai |
| 2. 発表標題 Development of Buddhist Chatbot, AR and Metaverse to Meet and Talk with Buddha: "BuddhaBot-Plus", "Tera-Platform AR Ver1.0", and "Tera-verse" |
| 3. 学会等名 International Academic Conference on "Religion and AI" (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Seiji Kumagai |
| 2. 発表標題 Origins of the Education of the Drukpa Kagyu School: The Education of its Founder Tsangpa Gyare (1161-1211) |
| 3. 学会等名 16th Seminar of the International Association for Tibetan Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Seiji Kumagai |
| 2. 発表標題 Mahamudra Theory and the Four Types of Yoga in Tsangpa Gyare (1161-1211), Founder of the Drukpa Kagyu School |
| 3. 学会等名 19th Congress of the International Association of Buddhist Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 熊谷誠慈 |
| 2. 発表標題 仏教対話A I「ブッダボット」の開発状況と今後の展望 |
| 3. 学会等名 第81回日本宗教学会学術大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Seiji Kumagai and Toshikazu Furuya |
| 2. 発表標題 Development of “Tera-Platform AR Ver1.0”, Augmented Reality (AR) to Meet and Talk with Buddha: Toward the Establishment of Buddhist Metaverse “Tera-verse” |
| 3. 学会等名 4th International Vajrayana Buddhism Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Kengo Konishi |
| 2. 発表標題 Changes in relationship between Bonpo monks and mountain deities: A case study of gsol kha and its social backgrounds |
| 3. 学会等名 16th Seminar of the International Association for Tibetan Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Katsuhiko Masaki |
| 2. 発表標題 Community economies for future prosperity of Bhutan and Japan |
| 3. 学会等名 Workshop 10 on Gross National Happiness (GNH) (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 真崎克彦 |
| 2. 発表標題 ブータン山村におけるコミュニティ経済振興 プムタン県の乳業協同組合の事例から考える |
| 3. 学会等名 日本ブータン学会第6回大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 真崎克彦 |
| 2. 発表標題 「多遍性」(pluriversality) 研究の背景と意義 |
| 3. 学会等名 国際開発学会 第22回春季大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Katsuhiko Masaki |
| 2. 発表標題 Community economies in support of people's livelihoods: A case of a dairy cooperative of a mountain village in Bhutan |
| 3. 学会等名 Third Sustainability and Development Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 真崎克彦 |
| 2. 発表標題 ブータン山村における協同組合支援 (JICA草の根技術協力事業) 地域の多面的な世界 (観) から学んだこと |
| 3. 学会等名 国際開発学会「市場・国家との関わりから考える地域コミュニティ開発」研究部会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 真崎克彦・Jit Tshering |
| 2. 発表標題 GNH批判の学術的検討 アクターネットワーク論から逆照射する |
| 3. 学会等名 日本ブータン学会 |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Seiji Kumagai, Miguel Alvarez Ortega, Francoise Popparet, and Anna Balikci Denjongpa | 4. 発行年 2024年 |
| 2. 出版社 Kyoto University Press/Trans Pacific Press | 5. 総ページ数 542 |
| 3. 書名 Traditional Neighbors, Different Modernities: Traditional Neighbors, Different ModernitiesBhutan, Sikkim and the Mon Region | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Seiji Kumagai, Thupten Gawa Matsushita, and Akinori Yasuda | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 Centre for Bhutan & GNH Studies | 5. 総ページ数 191 |
| 3. 書名 The Three Oldest Biographies of Tsangpa Gyare, the Founder of the Drukpa Kagyu School | |

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 袁翰顕量、熊谷誠慈、室寺義仁 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 臨川書店 | 5. 総ページ数 256 |
| 3. 書名 現代社会の仏教 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 真崎 克彦 (Masaki Katsuhiko) (30365837) | 甲南大学・マネジメント創造学部・教授 (34506) | |
| 研究分担者 | 小西 賢吾 (Konishi Kengo) (80725276) | 京都大学・人と社会の未来研究院・特定講師 (14301) | |
| 研究分担者 | 安田 章紀 (Yasuda Akinori) (40638607) | 京都大学・こころの未来研究センター・研究員 (14301) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

| | |
|---|--------------------|
| 国際研究集会 第16回国際チベット学会（学術部会：Bhutan, Sikkim and Their Surrounding Regions） | 開催年 2022年～2022年 |
|---|--------------------|

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | |
|---------|-----------|----------|--|
| ブータン | 王立ブータン研究所 | 王立ブータン大学 | |